

アジア原子力協力フォーラム(FNCA) 2018上級行政官会合(SOM)の結果概要について

平成30年8月7日

内閣府 原子力政策担当室

1. 開催日時 : 2018年7月19日(木)
2. 開催場所 : 三番町共用会議所(東京都千代田区)
3. 主催者 : 内閣府
4. 参加国 : オーストラリア、中国、カザフスタン、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、モンゴル、フィリピン、タイ、ベトナム、バングラデシュ (12ヶ国)

5. 我が国の主な出席者 :

進藤 秀夫 内閣府大臣官房審議官
林 孝浩 内閣府原子力政策担当室参事官

6. 会議の概要 :

FNCA 上級行政官会合(SOM 会合)は、FNCA 参加国の原子力科学担当省庁・機関の局長級が出席し、FNCA の最上位会合である大臣級会合(本年は12月6日、東京にて開催予定)の予備的議論を行う場として位置づけられている。今回討議の結果概要は以下の通り。

(1) 2018年度大臣級会合(MLM-2018)での円卓会議討議テーマ等について

2017年度大臣級会合(MLM-2017:2017年10月於カザフスタン開催)について、SOM 事前サーベイの結果を紹介しつつ議論を行い、会議の議題、成果、運営などの点において概ね前年比で同等以上の評価を得たことが確認された。本年の MLM-2018における円卓会議のテーマについては、参加国からのサーベイ回答で最も支持を集めた「アジア農業への放射線技術を利用した貢献」(Contribution to Asian Agriculture by Radiation Technology Utilization)とし、このテーマのもと、サブテーマとして、持続可能な農業(Sustainable Agriculture)、食品安全/安定品質(Food Safety/Security(Quality))、気候変動と農業(Climate Change and Agriculture)が候補として挙げられた。これに関連した内容で、原子力関連国際機関(候補として Joint FAO/IAEA Program が挙げられた)による基調講演、また参加国から(豪州、マレーシア、フィリピンが可能性を示唆)の講演を検討して行くことになった。

尚、「気候変動(Climate Change)」、及び「放射線治療(Radiation Oncology)」も、この場で候補推薦があり、討議された結果、「気候変動」がスタディ・パネルのテーマ候補に変更されて検討されることになった。

(2) 2019年スタディ・パネルのテーマ等について

2018年3月に開催されたスタディ・パネルでは、「原子力関連法分野に於ける国内活動の取り組み(Enhancing Domestic Measures in the Field of Nuclear Law)」というテーマでの議論が行われた。これに関し、今回 SOM 会合においては SOM 事前サーベイの結果を紹介しつつ議論を行い、テーマの重要性の認識及び各国が得た教訓などの点で参加国から大変高い評価を得ることができた。次回のスタディ・パネルのテーマとしては、「原子力に関する環境アセスメントと法的枠組み(Environmental Impact Assessment and legal framework)」を取り上げることとし、具体的には「原子

方法と規制の観点からのEIAに関するトピック(a topic in the nuclear law and regulatory aspect)」、「原子力科学と技術の観点からのEIAに関するトピック(a topic in the nuclear science and technology)」を討議内容とすることが合意された。

また、サーベイ回答で(EIA)に並んで支持が高かった「原子力防災(EPR)」、及びMLMテーマ候補から回った「気候変動(Climate Change)」は2020年以降のテーマの優先候補として検討されることとなった。

(3) FNCAの活動、機能について

参加各国におけるFNCAの活動、機能の重要分野を再確認したうえで、今後の方向性について議論。当面は“技術・知識の共有”、及び“情報交換”といった活動を優先しながらも、各国での“研究開発”についても重要なテーマであるという認識を共有した。

(4) FNCA 表彰

第二回目のFNCA賞の選考を、本年5月より開始。7月の各国コーディネーターによる最終投票の結果を受け、今回のSOM会合にて下記の通り受賞チームを決定した。

- 年間最優秀研究チーム賞 : 放射線育種 (バングラデシュ)
- 年間優秀研究チーム賞 : 放射線安全・廃棄物管理 (タイ)
研究炉利用 (インドネシア)
加速器利用 (タイ)

年間最優秀研究チーム賞受賞チームの代表が本年12月に開催される大臣級会合において受賞スピーチを行う予定。

尚、プロジェクト数の収斂方向に鑑み、被表彰チーム数を当該年度プロジェクト数の半数未満とすることを事務局から提案し、本会合で合意された。今年度のプロジェクト数は7であり、次年度被表彰チーム数は3となる。

(5) 新規プロジェクトの予算措置について

新規プロジェクトの採択基準に関する基本的な考え方を事務局より説明した。具体的な採択ルールを事務局より、12月の次回SOMまでに提示する。

(6) 次回大臣級会合(MLM-2018)の準備状況等について

本年12月に開催予定のMLM-2018(東京開催)に関連し、事務局より暫定的会合アジェンダを説明した。12月5日午後から事前準備会合、歓迎レセプション、翌6日がMLMとなる。

(7) 2019年以降のMLM開催地について

2019年の開催について、モンゴルに打診していたが、同国より、2021年の会合をホストしたいという回答があった。本会合でその旨説明し、2019年と2020年の会合開催を申し出られる国は本年9月末までに事務局に連絡することを要請した。

以上